

# 第5回 幼・保・小合同研修会

とき 令和2年11月16日(月) 午後3時～午後4時30分  
ところ 郡山市総合福祉センター5階集会室

## 「発達障がい等気になる子の実態と支援のあり方」

～人との繋がりをベースにした心の育ち～

講師：宮城教育大学 特別支援教育講座 教授 植木田 潤 先生

植木田先生は、特別支援教育の専門家で、発達障がいを持つ子どもの障がい特性やその養育環境に起因する学びにくさの理解と支援、特別支援学級を担当する教職員を元気づけるためのコンサルテーション等を研究されておられます。

今回は、通常学級に在籍する気になる子どもの理解と支援について具体的な例を挙げて、難しい内容をわかりやすくお話をいただき、受講者にも大変好評でした。

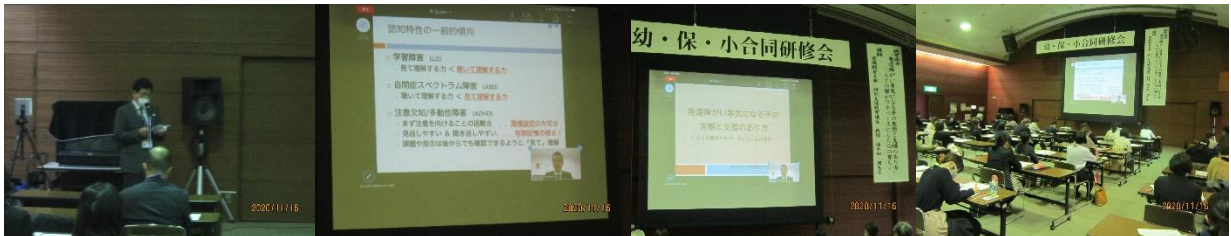
### 【発達障がいについて】

- 発達障がいは、脳の機能障がいであり、養育環境や心理的なストレスが原因ではない。
- 機能障がい（機能不全）ではないので、訓練や練習によってある程度は改善する。
- 「直す」ものではなく、「特性とうまく付き合う」ことを目指すもので、得意なことや強みを伸ばすことに時間をかけたい。
- 発達障がいと定型発達（非発達障がい）は、連続体（スペクトラム）であり、明確な境界はない。

### 【発達障がいの認知特性】

- 言語性 IQ（音声処理過程の能力：過去の学習経験に基づく判断力や習慣など）と動作性 IQ（運動処理過程の能力：新しい状況に適応する能力）の差（ギャップ）が大きいと学びにくさや生きづらさを生じる。

例：自閉症スペクトラム障がい（ASD）…聴いて理解する力<見て理解する力  
→見えるものに残す支援が必要



### 【発達障がいのある子どもが直面する困難】

- 学習 - 教科指導面
  - ・ 知覚・認知特性の偏りによる学びにくさ
  - ・ 基礎学力が弱い、得手・不得手が極端
  - ・ 無気力・諦めやすさが常態化
- 行動 - 学校生活面
  - ・ 感覚過敏による過剰な反応
  - ・ 刺激や情緒のバランス調整が難しい
  - ・ メタ認知（自己の客観視）が弱い

支援・配慮

教科の補充、ユニバーサルデザインの環境

場の構造化、刺激量の調整、ルールの明確化  
子ども同士の相互理解など

情緒の安定、対人関係の調整、  
意識のバリアの除去

### 【まとめ】

- 「聴いて理解する力」と「見て理解する力」のアンバランスがあることを踏まえ、個々の子どもの強みや学び方の違いに配慮した支援が重要である。
- 関わり方・支援においても、視覚情報の活用、聴覚情報の活用といった個々の特性に合わせた伝え方、理解のさせ方がある。

### 【アンケートから】

- ・ 以前から学びたいと思っていたことを今回詳しく学ぶことができ、よかったです。多動症、自閉症という言葉はよく聞きますし、本も沢山出されていますが、実際に研究されている先生の直接的な説明や事例の紹介で、より詳しく発達障がいについて理解することができました。  
(保育所：女)
- ・ 二次障がいにつながらないようにすることも重要と感じました。具体例がとてもわかりやすくて助かりました。  
(小学校：女)